

2、そして、ロシアへ

配属希望は叶えられ、私は現在ロシア語研修生としてロシア・サントペテルブルク国立大学に留学しています。約1年半当地にてロシア語を勉強し、その後モスクワにて半年間の実務研修に移行する予定です。

(1) よくわからない国、ロシア

ロシアは世界最大の国土面積（日本の約45倍、アメリカの約1.7倍）を誇り、同国内の時差の最大差は10時間、隣国はヨーロッパ、アジア、カナダ・アメリカにまで及ぶ広大な国です。人口は約1億4200万人（世界第9位）、名目GDPは約\$1兆6,800億（同11位）、主要な宗教はロシア正教です。

ロシアは政治的にも経済的にも非常に大きな影響力を持つ国です。

冷戦時代の旧ソ連は言わずと知れた東側のリーダーであり、ロシアとなった現在でも国際連合の安全保障理事会常任理事国の一つです。アメリカと並ぶ核兵器大量保有国でもあります。メドベージェフ大統領及びプーチン首相の言動は世界でも注目されています。

また、昨年後半の金融危機により現在成長が停滞しているものの、経済成長著しい“BRICs”の一員です。石油や天然ガスをはじめとした様々な資源に恵まれており、再び世界経済が回復した後の経済成長も見込まれるでしょう。

日露関係に目を移すと、国際法上は未だ平和条約は結ばれておらず、北方領土問題は存在するものの、ロシアは日本の技術を渴望しており、また、日本にとって地理的に近く豊富な資源を有するロシアは非常に魅力的です。今後両国関係は一層重要性を増していくと考えられています。

一方で、冒頭の通り、日本人はロシアやロシア人についてその実情をほとんど知らないというのが現状です。西側諸国のメディアの影響からか、どちらかといえばネガティブな印象さえ漠然と持ってしまいがちです。（恥ずかしながら、私は配属発表でロシア語研修生といわれるまで、ロシアは広くて寒くて暗い国、ヨーロッパへ旅行する際の空路通過国との認識しかありませんでした。）

この国はどういうところなのか。この国の人々がどんな事を考えているのか。

ロシア語やロシアの歴史・文化について学ぶ事と併せ、これらの事について肌で触れ、感じ、考える事が、私のこの研修での目的です。

(2) 「さすがロシア！」

ロシアに到着してから一か月半が経過し、やっと生活に慣れてきました。ただ、日常生活では「さすがロシア。」とつぶやいてしまう場面によく出くわします。例えば、スーパーのレジや銀行の窓口での列です。設備自体は多くあるにもかかわらず、空いているのはその内の一つ、二つという状況がよくあります。その為、客が長時間列を成す訳ですが、店側は急ごうともしませんし、列に並ぶロシア人もそこまで気にしていない様です。

また、東欧諸国でも同様の光景が見られるそうですが、バスでの料金支払い方法も特徴的です。バスの中に料金徴収の係員がいて、その人が自分の所に徴収に来た時にお金を支払います（係員の記憶力には毎回脱帽します）。予めカードを持っていれば現金を支払う必要が無いのですが、それでも車内混雑時は群衆を押し分けてくる係員にカードをかざすのも一苦労です。

これらを私は現在「非効率だな」と思っています。もしかしたらこれを改善するところにビジネスチャンスがあるのかもしれませんが、一方で、それはまだまだ私がロシアの本質をわかっていないだけなのかもしれません。20年前迄社会主義の世界で生活していた彼らにとってはこういう生活が普通であり、むしろこの方が人々にとって快適であるところかを感じているからかもしれないからです。

この2年間の研修でじっくりロシア及びロシア人の本質を理解し、結論を出したいと思います。

10月上旬の時点で寒い日の最低気温は氷点下になり、つい先日（10月12日）には初雪を観測しました。ロシア語の先生は通常より1カ月早いと話していましたが、どちらにせよさすがロシア、寒い国です。これから始まる、寒く暗く長い冬に戦々恐々としていますが、アメリカ留学時代に培った「挑戦する姿勢」を常に維持し、ロシア人に食い込んでいきたいと思っています。

（尚、本記事の見解は筆者が勤務する企業の見解とは一切関係無く、私個人の考えを述べたものである事を念の為に申し添えておきます。服部）

服部 祐也（はっとり ゆうや）

ロシア連邦・サントペテルスブルグ国立大学留学中

2003年4月早稲田大学政治経済学部入学。2005年9月～2006年6月アメリカ合衆国 California Polytechnic State University San Luis Obispo 留学。2007年9月早稲田大学政治経済学部卒業。2008年4月より総合商社勤務。現在、ロシア語研修生としてサントペテルスブルグ国立大学に留学中。



服部君のロシア滞在の体験記の始まりです。服部君よろしく！

服部君は、早稲田の私のクラスの受講生で、アメリカに留学し、企業に就職しました。その企業からの派遣で、今回のロシア語研修のためのロシアの大学への留学です。

服部君の体験は、海外・帰国生の体験と重なる部分が多くあります。お子さんの考え方の理解のため、留学・帰国生の就職後の姿を知る、また、お子さんとの会話の話題として、お読みいただければ幸いです。